

追悼

JA3UBさん
三好二郎 OM



追悼 JA3UB 三好二郎さん

大阪国際交流センター - ラジオクラブ会長 JA3AA 島 伊三治

平成19年8月27日逝去された当クラブ元会長 JA3UB 故三好 二郎さんに心から哀悼の意を表します。三好さんは当クラブの創設者であり 初代の会長であり 大阪国際交流センター - という素晴らしい場所を拠点として、アマチュア無線を通じて国際交流を図るといふ当クラブの理念の中心的な実行者でありました。

三好さんのアマチュア無線を通じての国際的な人脈交流の範囲は非常に広く、訪れた国は100エンティティ - に達するかそれに近いものと思われます。とまかく妻い行動力の持ち主で、特に東南アジアではアマチュア無線の未許可の国、あるいはアクティビティの低い国へ出掛けて行って、アマチュア無線のバイ菌を蒔いてきたと表現していましたが、政府関係の要人とも出会いアマチュア無線に対する理解度を深めさせるなど、彼独特の人柄で幾つかの国にアマチュア無線を認めさせたり アクティビティを上げる等の努力をされていました。

国際交流で忘れてはならないものに国際会議があります。わが国は世界一のアマチュア無線王国にも関わらず世界規模のアマ無線の国際会議が全く開催されていませんでした。日本における世界規模の最初の会議は1993年大阪のここ大阪国際交流センター - で開催されたYLMi- ティングです。これは三好さんの奥様 JR3M VFさん等が中心になって開催されたものですが、彼の後方支援が大きな力になっていたものと思われます。そして2005年のAPDXC、2006年のSEANETと何れもこの大阪国際交流センター - で開催されています。これも此処に拠点をもちおればこそで、このクラブ創設の意義は非常に大きいものがあります。

三好さんは若年層のアマチュア無線離れは将来的には、日本の(無線)技術者の不足に繋がると憂慮し、子供の理科離れにストップを掛けようと、電波適正利用推進員協議会で小学校高学年と中学生とその親御さんを対象にファミリ- 電波教室を開催しました。当初は募集のため大変な御苦労がございましたが、今では近畿圏から全国規模まで拡大しています。また、花博オ - バパワ - 訴訟、JARD 2億円出損訴訟に見られる如く1銭の得にもならないことに身銭を切って対応する反骨精神の持ち主でもありました。

私が頭が下がったのは、平成17年12月暮れの大手術で一命を取り留めたものの、医師から余命6ヶ月の宣告を受けながら、翌年にはSEANET2006を成功させ、今年1月にはラクシャドウイブVU7RGのDXペディションの際には、やせ細った身体で参加、その気迫には、さすがの冥途からのお迎えも遠慮したようで、その気力にはただただ頭が下がる想いでいました。それとこれを陰で支えてこられた奥様の御苦労も如何ばかりかと感心しております。

三好さんは病に倒れてから後もアマチュア無線一途に頑張られました。そして生前予定されていたことを全てやり遂げられたと思います。その頑張りには皆さんが畏敬と尊敬の念を抱いています。三好さん天国でゆっくりお休み下さい。長い間有!難うございました。

弔辞 : JA3UB, 三好二郎さんへ

JA1UT 林 義雄

JA3UB, JIRO (ジロ)さん！ 今日、あえていつも呼び慣れている「JIROさん」と呼ばせて頂きます。

JIROさんとの出会いは、フィリピン第1共和国独立記念事業として私たち東京のハムたちが1978年の8月に4D88UTの運用で首都マニラを訪れる準備の真最中に、当時フィリピンの事情に詳しくあったあなたから、アドバイスのお手紙を頂いたのがお付き合いの初めでした。あれからもう30年になりますね。

以来、1983年のカンボジア・アンピルからの3派連合政府によるXU1SS、翌年の中国福州市からのBY5RA、89年のXW8 KPLのラオスからの初運用、JIROさんが世紀のアマチュア無線詐欺師ロミオと、日本人として始めて会ったのもベトナムのXV2Aの時でした。

1990年、バングラデッシュからのS21U、そして1995年、29年ぶりのハム再開のミャンマーからのXY1HTの運用と1967年以来27年間アマチュアの電波の途絶えていたパレスチナ自治区からZC6のコールサインで電波を出されたときも一緒でしたね。

JIROさんは、ニューカントリーの運用と言うと、不思議と言うか、きちんと計画したかのように私たちに影のように寄り添って来てくれました。ただ、残念ながら、1999年、ご一緒してくれた、私が70才の古希を迎えた7Q、イエメンと、95年に私が渡航をアレンジした北朝鮮はとうとう一緒に世界の仲間たちにJIROさんの元気な声を届けられなかったのは残念でした。



DX-PEDITION OF THE YEAR

しかしJIROさんの苦勞は、最後のアンダマン・ニコバルとラクシャドゥイヴのDXペディションで世界のDXサーたちを喜ばすのに十分だったと思っています。

時たまの電話では、いつもJIROさん独特のジョークと筋の通った正義感で何度も私は勇気付けられ、また爽やかな気分にもなれました。あのボケとツッコミの楽しい会話ももう出来ないと思うと、言い知れぬ寂しさがこみ上げてまいります。私の電話帳にはJIROさんの電話番号だけがいつまでも寂しく残っています。駆け足でしたが、あくなき冒険心と男のロマンに満ちた人生でしたね。

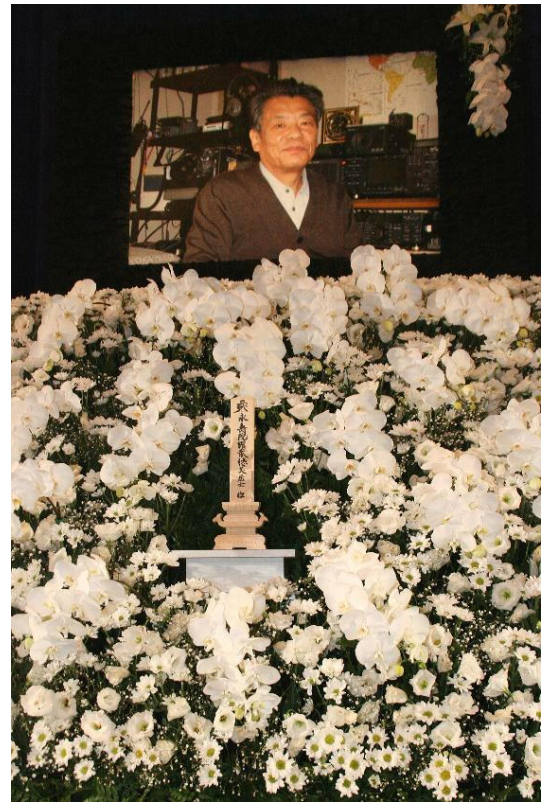
JIROさん 天国でゆっくり休んでください」

2007年 9月 30日

JA1UT 林 義雄

特定非営利活動法人

国際アマチュア無線ボランティアズ 理事長



4月に JA 1G コブレンツでご夫妻にはお会いしました。東京でも何度かお会いしております。JA 1G大阪ではお世話になりました。でも私は電波適正利用推進員協議会の件ではお世話になって居りました。Skypeでも何度かおしゃべりさせて頂きました。

9月30日には何おうかと思ったら、丁度叔父の49日と同じ日になって仕舞いました。大阪だから行けないというではありませんが、その様な訳で残念ですがお伺い出来なくなって仕舞いました。心より三好さんのご冥福をお祈り致します。

JA1FY 野田隆志

三好さんの訃報を知り、ビックリしています。丁度ハムフェアーの終わった次の日ですね。今年は関ハムに行けず、三好さんにお会い出来ませんでした。昨年お会いした時、少しお痩せに成って居たので一寸心配をしておりました。荒川さん、三好さんご夫妻とイギリスの片田舎でお会いしたのを懐かしく思い出しております。色々大阪単身赴任の折りに、面倒を見て頂き感謝の気持ちで一杯です。

あいにく、30日は出席できませんが、心よりご冥福をお祈り致します。

合掌 JA1FNO 須之内 建史

世界一フェミニストだった故JA3UB三好二郎元会長 殿
1993年、満開の桜の中、第2回国際YLミーティングとして、「アジアYLミーティング93 in大阪」をアジアで最初にこの大阪国際交流センターで開催できたことは、JAのYLたちを支えてくださった故三好二郎元会長のお陰です。又、I-HouseラジオクラブメンバーのOM様たちと一丸となってDX YLたちをお姫様のように歓待して下さいました。毎年、美しい桜の季節、世界中のYLたちは世界一フェミニストJIRO様のことを思い出すことでしょう YLの一人とし、心より感謝を申し上げると共に、ご冥福をお祈りいたします。

73 de J1CAS 菱木ひろみ



Opening of Gala



SEANET
Osaka to Lampung

OM, YL, XYL and Family of Mr. Jiro Miyoshi JA3UB,
Our deepest condolences to Mr. Jiro Miyoshi family.
We knew Mr. Jiro san as one of the Pioneers of Ham radio in Japan. He loves his hobby and dedicated all his free time to help others. He organised DXpeditions to many countries and many rare DX for all Hams over the world to enjoy.
You help organised a very successful first SEANET Convention in Osaka, Japan. We remember your laughter and happy smile.

You always look after your mates and made us very happy.
We are so proud to have a friend like Mr. Jiro Miyoshi JA3UB and we are going to miss you very much.
For all of us in Australia and all over the world who knew you. As the Aussie would say "You are my best Mate"
Farewell my friend and we always remember you..
BEN VK6XC, LISA XYL & TIM VK6FTIM.
BARRIE VK6ADI
EDDIE VK6AEA
TERRY VK8TA

I honestly can't remember when I first met Jiro Miyoshi?
He was always there for every Seonet just watching his friends and laughing all the time.

I heard he was unwell a year ago but he still insisted in running the Osaka-Seonet and doing everything personally with the support of his wife Mio San and family.

I still remember the joy and happiness when he was told that the Seonet - Osaka was the BEST Seonet in the history of Seonet. It was educational, we all so Japan and its culture. It was well run and also we had the best food we could get with the best Japanese fellowship.

On behalf of all the SEANET members all over the world, please allow me to convey my deep felt condolences to the family of Jiro San. He is a big loss to the Seonet community as he is now a SILENT KEY. His absence will be felt by everyone in the Seonet Community and after a great life that he has had, he will go up to heaven and be with his Maker. May God bless him and remember all the good he did in this world so that he will have a blessed time in heaven.

We all miss you my friend Jiro. Farewell my friend and God bless you wherever you are.

Dr K.N.Singh (9M2KN)

It was such a sad news that we have lost our very best friend, who always had warm heart and sincerity.

Being active and happy as he always was in every SEANET convention that I had a chance to attend, he will be always remembered..-----

Jiro san, may you sleep in peace and wake up in the place that you will enjoy, strong signal, no qrm. and don't forget to come join us in Lampung... I will look for you..
73/88 de Thida - HS1ASC



The conductor led astray.

三好二郎兄さんへ

JE3BEQ 宮本誠一

三好さんを初めて知ったのは、2003年の関ハムのときでした。会場のスロープに張り巡らされた国際交流センターラジオクラブのパネル展示の前で、クラブに興味がありますと申し出てお話ししたのが始まりでした。クラブの説明やメンバーの紹介を懇切丁寧にして頂き、今思えば体育会系の新入生のクラブ勧誘のような威圧感すら感じる熱烈なものでした。多分三好さんはそのときこの男をクラブに引き込んでやろうと思われたのではないかと想像しますし、私自身こんなユニークな人と趣味の仲間になれたらと思ったことでした。

その年の11月、まだ「会社(仕事)人間」で躊躇していた私を強引にマレーシアのSEANETに誘って頂きましたが、まさか自分が三好さんと一緒に日本で初めてとなるSEANET大阪開催に一役買うことになるとは思ってもみませんでした。

SEANET2006大阪は3年にわたるプロジェクトで、途中難しい判断をすることが何度かありました。時には三好さんの意見に賛成できず、悩んだこともありました。SEANET大阪のメインパーティーの最中、世話役で走り回っていた私の名前が突然マイクで呼ばれ一体何事かと思ったら、司会者がSEANET2006大阪開催に努力した私を三好さんが皆の前で表彰したいと言っているのです。舞台上上がるようにとのことでした。万来の拍手の中三好さんから表彰を受けましたが、正直なところコミッティー自身が検舞台に上がるのはどうか、また表彰されるとしてもコミッティーメンバー全員であるべきとの思いから、私の心には引っかかるものがありました。しかし今思えば、三好さんの強いリーダーシップと包容力、何より私を弟のように暖かく見て頂いていたのではなかったかと、失礼ながら勝手に想像し大変嬉しく心から感謝しています。

ふと思い出しました。SEANET2005バンガロールの帰国の日帰りの飛行機に乗るまでの間バス観光をしました。クラブメンバーの同行者が観光ツアーのみやげ物店に連れ込まれ空港に行く時間が迫ってきたとき、三好さんが「皆さんは英語の断り方のノーハウをご存知ないから」と仰って、皆を連れ戻しに店に入って行かれました。しかし窓越しに三好さんも店のペースに引き込まれているのがわかりましたよ。タクシー手配係の私は店の外で迫ってくる時間に冷や冷やししながら待っていましたが、三好さんは悠然と店から出てきて曰く、時間のことは十分考えているから大丈夫!!! そのあと列の三輪タクシーでホテルまで爆走し恐怖に怯えましたね。5年間お付き合いをして頂きましたが、楽しい思い出が一杯あり又それらが印象的でずっと忘れることができません。本当に有難うございました。心からお礼を申し上げます。73。

(de JE3BEQ)

追伸 私は今年のSEANET2007ランパンに参加するつもりですが、是非一緒をお願いします。



正義と反骨の士だった三好二郎さんを偲ぶ

JA 3AER, 荒川泰蔵

三好二郎さんとはアマチュア無線を通じての長いお付き合いでした。彼のアマチュア無線に対する情熱と行動力には目を見張るものがあり、日本のみならず世界のアマチュア無線界に与えた影響は少なくありません。時には自分の信念を貫くために雄弁に行政や大きな組織に対抗する反骨精神も旺盛で、場合によっては相手に理解されず敵を作るようなこともありました。非難されればそれをバネにして更に前進するという特殊な能力の持ち主でもありました。特に東南アジアや中国のアマチュア無線の普及に尽力されたことは特筆すべきでしょう。次のコールサインは私がCQ誌に「日本人による海外アマチュア無線局の記録」を連載していた時期(1985-1998)に頂いたレポートです。

JA3UB/DL, 4U1ITU, 4D1SEA, 4D3UA, 4D6UB, DU1UB, DX1JA, DX1PAR, DU1POP, DX7JP, DX3UB, DU0WPX, HSIARU, HS0JUA, KC6CX, YB2SEA, 9M0SEA, BY1PK, BY4AA, BY5NC, BY5RA, BY5RF, BY5QA, BY5UA, XU1KC, XU1SS, XU1YL, DX1IYY, TA2ZB, 3W6UB.

これは運用期間が1977から1997年までの約20年間ですが、これを見るだけでもいかに各地を訪問して協力されたか伺い知ることが出来ます。私は1989年に北京、上海、福州など各地のアマチュア無線局を訪問しましたが、どこでも三好さんが寄贈された無線機が並べられ、指導を受けた関係者達は感謝していました。

また国内でも、電波適正利用推進員としてファミリー電波教室を開き、子供達への指導に情熱を燃やされました。また、大阪国際交流センターラジオクラブの創設者の一人として、ここをベースに各種活動を推進してこられました。大手術を受けた後も壮絶な病気との闘いだっただと思うのですが、我々には弱みを見せず気丈に振舞い、その活動は衰えることなく、SEANET2006を成功させ、VU7RGへのDXペディションへの参加と関ハムでの報告、大阪府電波適正推進員協議会の会長としての活躍、それに、大阪国際交流センターラジオクラブの月例会には杖を突いてまで参加し良く喋られました。喋っていると元気が出てくと最後まで喋ることは衰えが見えませんでした。

しかし、最新の医療技術を駆使し、また奥様の献身的な看病の甲斐なく、とうとう病気には打ち勝つことが出来ずに逝ってしまわれました。我々のラジオクラブは勿論、アマチュア無線界にとって大切な人を亡くしました。三好さんにとってはまだまだやりたいことがあり無念だったに違いありません。我々ラジオクラブのメンバーは、その思いを少しでも受け継いでクラブの持続的な発展のための活動を続けて行くことでしょう。どうぞ安らかに眠り下さい。そして天国から我々の活動を見守って下さい。

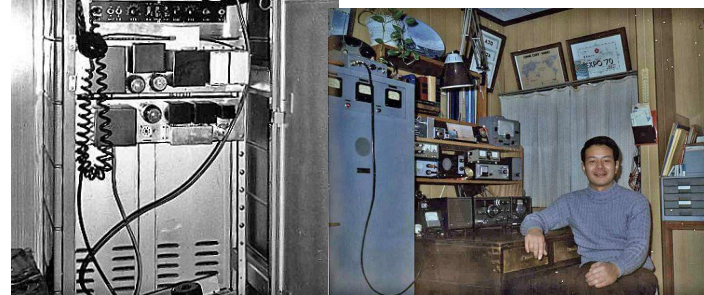
合掌

お別れ会に出席させていただいて、あまりに素晴らしいと言いましょか、素敵などと表現しましょか、お別れ会にはそぐわないこの言葉が、ちっとも不自然に感じられない雰囲気にしたらせていただきました。帰路、30数年前の記憶が、ふつふつと頭の中をよぎり 帰宅するやいなや、写真を保管したジャンク箱を引っ張り出してきました。

ありました。あの頃、何台かお世話になったうちの一台の写真が。あの重たいラックをばらしめせずに、階段をずり落ちそうになりながら二人で二階のシャックに引っ張り上げていただきました。二人とも若かったのですね。UBさん、僕の写真も若くてなかなかいかすでしょう。水晶発振子の別注やら、電源の保守やら稼働するまで何度か茨木のお宅にお伺いしてご指導いただきました。遠い昔のはなしです。

関ハム、APDXC、SEANET2006でお会いするうちにZAGにお誘いを受け、入会のとたんの悲しいお別れになってしま

いました。まことに残念、言葉もありません。遥かDXから聞いていて下さいね。私の信号を。そして、ちょっと行き過ぎていたらpedi局の上にポンど落として下さいよ、お願いします。UBさん、さようなら。



丁度20年前の春、三好 OM と初めてお会いし致しました。当時は大阪挙げての初めての「御堂筋パレード」等を担当した(財)大阪 21世紀協会から大阪市役所へと戻り、市長室国際交流課で、大阪市制 100周年記念事業として建設する大阪国際交流センターのハ-D(建物)とソフト(運営財団設立)を担当する業務に従事中で大変多忙な時期でした。私は大阪国際交流センター内に国際交流の原点ともいえるアマチュア無線局を設置してはと考へ、当時の上司である大阪市外務監 井関雄三氏(財団設立後は専務理事に就任、故人)に相談し設置の了承を得た後に、設計担当の営繕課に対して無線局設置の為の設計変更を依頼し、何とか6階の屋上にタワーの基台と1階までの同軸ケーブル用パイプ5本を建物に組み込むことが出来た頃の昭和62年(1987)4月5日の日曜日に、妻と家の裏山へ桜を見に散歩に出かけたところ、丁度三好 OM 他各局がユニセフの移動局を運用している最中でした。



運用状況を拝見している私に三好 OM から「興味がおありですか! どうぞこちらへ」と話しかけてこられ、私は「従事者免許証は持っているのですが、まだ開局していません。」という返事がキッカケで、大阪国際交流センターの概要を説明すると、偶然にも三好 OM は、昭和45年(1970)の「日本万博」時に、大阪市と姉妹都市提携を締結しているサンフランシスコ市のパビリオンで、日本初の特別記念局 JA3XPOの運用時に当時の大阪市外事課長 井関雄三氏と交流があったと聞かされ、人との縁(エニシ)に驚いたものでした。

その日以降、大阪国際交流センターという公的機関の建物内に、日本ではめずらしいアマチュア無線局(クラブ局)を開局するまで、JA3UB三好 OM には多岐にわたるアドバイスやお力添えを頂き、リグ以外の準備はすべて工事へ組み込み1階にガラス張り無線室が完成しました。残るリグも、三好 OM の仲介で、大阪市制100周年記念事業に賛同して頂いた地元のメーカーから大阪市へ備品として寄贈(大阪市からアイコムへ感謝状を贈呈)して頂き、お陰さまで昭和62年(1987)9月16日付の「大阪国際交流センター ラジオクラブ(JBZAG)無線局免許状」が届きました。

大阪国際交流センターの事業を理解して頂き、ボランティア精神で JBZAG の定款の目的を推進して頂ける、三好 OM をはじめとする JA3XPO 運用のアマチュア無線家を中心とした17名の発起人のご協力とご賛同によりスタートすることができました。大変嬉しかったし印象的な思い出です。

私の方は、これより1カ月前の8月17日付で免許状が届き、初QSOを8月22日20時50分に5Q、29MHzで、三好 OM と交信でき無線業務日誌の最初に記録することができました。その後に妻と娘が開局できたのも三好 OM のおかげでした。また、JA Fハムクラブ関西(JA3ZPK)へも三好 OM に薦められ入会させて頂き現在に至っています。それからは(財)国際花と緑の博覧会協会(花の万博)へ出向、市長室報道課勤務に次いで、1994年4月「大阪ドーム」を立ち上げる為に出向した時も、三好 OM から大阪ドームでの国際イベント用アマチュア無線設備のインフラの必要性を伺い整備しました。

以後、市民局文化振興課、東住吉区役所と勤務し、一年早く2003年大阪市役所退職後は、全国共済生活協同組合連合会へ転職、今年6月末に無事退職。大阪国際交流センター勤務を離れてからは多忙な職場ばかりを回り、いつも JBZAG の事業のお手伝いがかたならず、三好 OM には申し訳なく思っていました。昨年1月に三好 OM が初めて北野病院へ入院された時、すぐにお見舞いに駆けつけ早いご回復を祈りました。その後は、国内、海外と元気に活躍されておられましたのに、JBZAG 開局20周年直前の8月27日の突然のご逝去は大変残念です。合掌

大先輩のご冥福を心よりお祈り申し上げます

JQ3EEL 嶋崎真波

わたくしと「JA3UB/三好さん」との出会いは、15年ほど前のことでした。

当時わたくしは、パケット通信局J13ZAGを介して外国のアマチュア無線局とのメッセージ交換を楽しんでいました。自宅に設置したHFアンテナや、アマチュア衛星AO-13を使ったサテライト通信で直接外国局と交信することもできましたが、台湾、フィリピン、インドネシア、スリランカ、イスラエルなどのアマチュア局が設置したいくつものパケット交換局を通し、時には何日もかけてヨーロッパやアメリカに転送されるメッセージ通信にロマンを感じていました。

アマチュア無線は違法局の増加など、King of Hobbyたるアマチュア無線を貶めるような状態が長くありました。わたくしは、アマチュア無線活動が本来持っている国際交流・理解の側面は確たるものであることを全国のアマチュア局に訴えたいと思い、外国のアマチュア局との交信後に交換するQSLカードから伺える「各国の様子や、相手局のアマチュア無線への思い入れ」などをエッセイ風のメッセージにし、J13ZAGパケット局を通して50件ほど全国に配送しておりました。すると、J13ZAGの管理をされていたJA3DAU小川さんより思いがけずお声がかかり、上本町の大阪国際交流センターホテル内の国際クラブで行われていたJ13ZAGの定例会に出席するようになりました。

会では現在わたくしが理事を務める特定非営利活動法人「フレンズオブマイクロネシア」の海外支援活動などをお話すると、三好さんより「何度も訪ねるのは、彼女が現地に居るためでは?」などご冗談も伺い、楽しく過ごさせて頂きました。

三好さんは文字通りJ13ZAGの中心的存在で、各国のアマチュア局との交流だけでなく、アマチュア局の無い国への設置に向けた活動を通じた国際交流など、アマチュア無線がまさにKing of Hobbyに相応しい趣味であることを強く感じさせて頂いた方でした。ラオス行きなどをお誘い頂いたこともございましたが、ご一緒できなくて非常に残念でした。

添付の写真は1993年にJ13ZAGメンバーが多数ホストとして参加して開いた1993YL-Meetingのもので



(わたくしは後列右端から8人目)

三好さんはこのような外国人アマチュア無線家を招いたミーティングで、無線交信だけでなく実際の交流を図り、奥様の京子さんと一緒に真に民間外交官といふべき活動を積極的にされていました。

本日、9月30日の本葬で「最後まで前向きで、最後まで奥様を気遣っていたらした」三好さんのお話を奥様より伺い、わたくし自身も斯くありがたいものど強く思いました。

現在のアマチュア無線はニューカマーの育成には難しい時代となりました。このような時期に三好さんが亡くなられたことは非常に残念でなりません。

大先輩のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

JA3UB三好OMの思い出

JR3LOO 西尾 幸浩

去る8月27日に届いた三好OMがサイレントキーになられたとのお知らせは私にとって大きな悲しみでした。

国際交流センターラジオクラブの末席にほんの1年余り前に加えていただいたばかりで、他のOM/YLの方々とは違ってまことに短い期間ではありましたが、大変ご親切なご好誼をいただきました。とりわけ、この25年あまりずっとQRTしておりました私が、長い眠りからアマチュアの世界にカムバックできたのは三好さんのお励ましと暖かいお心があつたればこそです。そもそもの始まりはJA3XPOで三好さんと一緒に活躍されたJA3AJ 小川仁美さんをなくしては語れません。小川先生は私の中学高校時代の化学の恩師で、クラブ局JA3YKBを通して長らくご指導をいただいたのですが、今から1年少し前どうされているだろうかと思つたことでWebで検索を試みましたが、驚いたことに三好さんの追悼文ですでに他界されていたことを知りました。勉強そっちのけでコンテストに没頭していた高校時代が急に懐かしくなり、きっとこれは何かの導きだと感じて導かれるようにラジオクラブにお問い合わせのメールを差上げたところ、三好さんからすくにお返事があり、一度例会へとお誘いをいただきました。2文字コールでどんな方だろうと、恐縮して参加させていただいたのがつい先日のようです。VU7のペディションのことと、目前に迫ったSEANET2006のことを熱く語っておられました。OMのお話に引き込まれるように、あつかましくもその場でお世話になることを決めました。以来、病身をおして私から見ても信じられないバイタリティーで諸行事をこなしていかれ、心より敬愛させて頂いていました。特に、8N3OSAの運用開始にあたっては、「西尾さん、家で電波出されへんでストレスたまってますやろ、ここで存分にオペレートしていってくださいな。」との言葉をいただき、これがきっかけで、ついに25年ぶりにカムバックハムになることができました。そして、つい先日、リグも手に入れ、移動局の局免許が届いて、さあ今度はこの免許状を三好さんにお見せして、ぜひJR3LOOの再開第一声でQSOをお願いしようとしていました。ご逝去のお知らせはそれから一週間もたたない間の出来事で悔しくて仕方ありませんでした。でも、思えばこうしてOMのご存命中に親しくお交わりをいただけただけで自分は幸せ者だと今では思うようになりました。

JA3XPOのシャックで小川さん、島本さんとCQ誌の表紙を飾られた在りし日をしのびつつOMへの御礼とさせて頂きたくす。三好OM、どうか安らかにやすみください。



カンハムにて

三好さん あいがとう!

JA3AOP 杉山 暁

J13ZAG-NLで三好さん追悼特集を編集するのは青天の霹靂です。未熟な編集ですがお許しください。

三好さん、沢山のパワーを与えてくださって、本当に有難う! ご援助下さった淡路のシャックへ来ていただく暇もなく天上に飛立たれたことは残念です。

時には天の上から我々の交信にブレークをかけてください。